

《入選》

偏見・差別のない社会に

彦根中学校 三年

なかしま りあな
中嶋 莉愛 さん

なぜ、差別や人権侵害が起きるのか。偏見で決めつけ、相手を傷つけてしまうのか。私の頭の中には、沢山の疑問があります。

今回の人権学習で私は、昔から続く偏見による差別や、SNSなどのインターネット上での差別が、より一層深刻な問題になってしまっていることを知りました。例えばSNSでの誹謗中傷。自分の顔は見られないから、何を言っても大丈夫。だからといって無責任な言葉や書き込みをするのは、書き込まれた相手、見た人の心を傷つけます。

主な例として新型コロナウイルスによって起きてしまった、医療関係者や、感染者に向けた誹謗中傷があります。目に見えない最恐な未知のウイルスが、世界中で広まっていく中で、「怖い」「死ぬのかもしれない」「どこまで広がっていくのか。」などの恐怖、不安、心配の気持ちがあふれてしまう事は当然です。私も実際に、新型コロナウイルスが広まり始めた頃、特定の地域で感染者が増え始めるとその地域に対して、マイナスイメージを持つてしまった時がありました。ほとんどの人が私と同じような気持ちになったと思います。そんな中でも、人々のために命をかけて見えないウイルスと戦ってくださっていた医療関係者の方や、感染しても一生懸命生きようとしている人たちに、心ない言葉や文章で攻撃する人たちがい

ました。私は言葉や文字というものは、仲間とコミュニケーションを取ったりするのはもちろん、喜びや楽しさ、時に悲しさを、互いにわかち合うものだと思います。また、文字を残すことでたくさんの思い出になることもあります。ですが使い方を間違えると治らない一生の傷になる場合も大いにあるので、自分の発言には責任をもつてこれからも、沢山の人の関わっていきたいです。

何事も急に大きな目標にたどりつくには、とても時間がかかると思います。偏見や差別は昔から伝えられてきているのもあり、私たちの中に強く根付いています。ですが私は、偏見と差別という大きな壁をのりこえられるように、少しずつ周囲に思いを伝えたり、人権についてもっとくわしく調べてみたりなど、小さいことから頑張ってい

きたいと思います。誤った考えに流されない正しい判断ができる社会になるように、私は社会の一員としてこうけんしたいです。